

第2学年1組 英語科学習指導案

日 時 平成30年11月1日(木)

場 所 [] 中学校 2年1組教室

指導者 教諭 [] (T1)

教諭 [] (T2)

1 単元名 Unit 4 Homestay in the United States

2 単元の目標

○助動詞を用いた表現活動において、読み手が興味を示すような内容を考えて書く。

【コミュニケーションへの関心・意欲態度】

○身近なルールについて理由を含めて、自分の考えを書くことができる。【外国語表現の能力】

○have to や must, will 等の助動詞を用いた文の構造を理解する。【言語や文化についての知識・理解】

3 学習の基盤

(1) 教材について

本単元は、生徒がアメリカでホームステイをしたときの困った事実とその解決策を扱っている。旅行とは異なり、家族の一員として過ごすホームステイでは、コミュニケーションが何よりも大切となる。本文では、ホームステイをする上で大切なこと、ステイ先の家庭のルールを教わる場面、ステイ中に遭遇する問題の相談と助言のやりとり、それを受けて自分の意志を適切に述べる場面などが紹介され、コミュニケーションの大切さや難しさについて考えるよい機会となる題材である。また、自分にとって身近なルールについて考えて、好き嫌いを述べたり、理由を考えることに発展させることのできる教材である。

言語材料としては、have to や助動詞の will, must, mustn't を扱う。1年時に学習した can は既習事項であり、助動詞の文の構造は理解しやすいと思われる。これらの助動詞は生徒にとって身近な場面や文脈で使われることが多く、学習することで表現の幅が広がることが期待される。

(2) 生徒について

〈個人情報保護のため省略〉

(3) 指導に当たって

本単元の最終には、生徒自身が考える「理想の学校」のポスターを作成する。そのポスターをお互いに読んだ後、自分の気に入った学校を選び、どのルールが気に入ったのかを理由を含めてコメントする(書く)統合的な活動を行う。理想の学校のルールを自由に考えることによって、生徒が興味や意欲を持って「書く活動」に取り組めると考え、構造を理解しやすい助動詞を用いて「理想の学校のルールを考える」という「書く活動」を単元のゴールとして設定した。単元計画としては、家庭のルール、自分の学校のルールについて助動詞を使って表現する一貫した活動を行う。ALTの話や教科書本文から、日本と海外の学校や家庭の生活の違いに目を向けさせ、そこから発想を引き出したい。

本時の授業は、グローバル研修で提案された授業アイデアを元に構成したものである。単元の指導過程に3つのステージを設定する。まず最初のステージ **Pre-writing activities** として ①Reading a model (アメリカのALTの学校のルールを読み、自分の学校と比較する) ②Controlled writing practice (自分の学校のルールを英文で表現し、この活動

に必要な表現 : have to ,don't have to, mustn't, can etc. の確認)を行う。次の **Writing activities** として、本時に、①Generating ideas (個人でルールを考えて書く→ペアで見直す→グループで各々の作ったルールを出し合う)②Creating a poster (グループで理想の学校のポスターを書く),最後のステージ **Post-writing activities** として①Reading other students' posters (友達の作ったポスターを読む), ②Writing about favorite rules (自分の気に入ったルールについてその理由やメリットを書く)の活動を行う。これらのステージを設定し、示すことで、よりスムーズな「書く活動」を促し、語彙や発想等の助けとしたい。また、英文を書く活動では、個人からペア、さらに4人グループという形態をとり、本校で実践しているグループ学習を取り入れた学び合いで思考を深めていきたい。また、作ったポスターを最後にお互いに読み合い、Best 1 を選ぶことを伝えることで、グループの仲間と積極的にかつ正確で考えを伝えられる文を書こうとする意欲を持たせ、また「読む活動」にも発展させることをねらう。

4 単元の評価規準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
表現活動において、読み手が興味を示すような内容を考えて書いている。	助動詞を用いて、身近なルールについて、理由を含めて自分の考えを書くことができる。		助動詞の文構造を理解している。

5 単元の指導計画 (全9時間)

ねらいとおもな学習活動 (○ねらい・学習活動)		形成的評価	評価の方法
1 2	○本単元で身につける技能や理解する内容を知る。 ・単元のねらいを知る (人に助言する, 自分の意志を伝える, ルールを伝える)。 ○ 助動詞 have to, don' t have to の使用場面を理解する。 ・本文を読み, have to を用いた文の構造を知る。 ・have to, don' t have to を用いて自分の家の家事について伝えあう。	エ	ワークシート
3	○助動詞 意思や未来を表す will の使用場面を理解する。 ・これからしようと思うことについて述べたりたずねたりする。 ・明日の天気について will を用いてペアで尋ね合う。	エ	ワークシート
4	○ホームステイ先での会話を読み取る。 ・教科書本文(part2)の内容を理解する。 ・本文の会話を, ペアで読み合い, ロールプレイをする。	ア	活動の観察
5	○味のホームステイについての相談内容を読み取る ・義務や命令を表す助動詞 must+動詞の原形について理解する。 ・教科書本文 (part3) の内容を理解し, 味のホームステイについての相談内容とアドバイスを読み取る。音読練習をする。	エ	ワークシート
6	○しなければならないこと, してはいけないことについて書く。 ・カードを使い, must や mustn't を使う場面や理由を組み合わせる活動をする。 ・ALTの持つ悩みについて, must や mustn't を使ってアドバイスを考える。	ア	活動の実際

ねらいとおもな学習活動（○ねらい・学習活動）		形成的評価	評価の方法
7	○カルロの相談内容と答えを読み取る。 ・教科書本文(Part4)の内容を理解し、音読練習をする。 ・単元全体についてのグループ対抗の英問英答に答える（リプロダクション）。	ア	活動の実際
8	○学習した表現を使って、自分の学校のルールについて書く。 ・外国の学校や日本の他の学校のルールについての英文を読む。 ・must や can 等の助動詞を用いて、自分の学校のルールについて書く。	エ	ワークシート
9 本 時	○Unit4 で学習した表現を用いて、理想の学校の「ルール」とその良さについて、英語で書く。 ・have to __ / must/ don' t have to __ / mustn' t を用いて表現活動をする。 ・自分の気に入ったルールを英文で書き、その理由や良さについて考えて書く。 ・グループで協力しながら、理想の学校を紹介するポスターを書く。	イ	ワークシート
10	○自分たちの考えた理想の学校のルールについて、自分の考えを英語で書く。 ・自分が気に入ったルールについて、その理由や良い点について書き伝え合う。 ・単元で学習した表現、文構造について、プリントで確認する。	イ	ワークシート

6 本時の学習

(1) 本時のねらい

○学習した表現を用いて、自分の気に入った理想の「ルール」を英語で書き、さらにその理由や良さについて考えたことを書くことができる。【外国語表現の能力】

(2) 本時の展開

学習活動	支援（方法・内容）		評価と方法
	T1	T2	
○あいさつ ○ウォームアップ ・ペアでQ&Aの会話をする。 ・Eye Contact と相づちを意識する。 ○本時のめあてを確認する。 「自分の望む理想の学校ルールを考えよう」 ○Pre-writing activities ①英国の学校のルールを読み、自分の学校と比較して自分の学校と比べ、自分の考えを記入する。（ペア） ②自分の学校のルールについて思い出す。 使った英語表現を思い出す。 ○Writing Activity ①Dream School Rules を考えて書く（個人）	(T1) 答えに対する相づちや、もう一文付け加えることを促す。（机間指導） (T1) 黒板に提示して確認する。	(T1) 校則を書いた英文のモデル（外国の学校の校則）を読ませる。 (T2) 次の活動（Dream School Rules）へつなげるために、表現を板書して残す。	イ 活 動 の 実 際

	<ul style="list-style-type: none"> ・そのルールをアピールする文（良さやメリットを説明するもの）も付け加えることを目標とさせる。 	ワークシート
<p>(自分で作る場合) Students don't have to take the textbooks home every day. →<メリット> Our bags are very heavy now. They will be light!</p>		
<p>(アレンジの例) Students don't have to wear school uniforms. →<メリット> We can wear our favorite cloths. In summer, we are too hot in school uniforms.</p>		
<p>② 4人グループで、自分の書いたルールを出し合い Dream School Poster を完成させる。</p> <p>○Post-writing activities</p> <p>① 壁に貼られた完成したものを、読み合い、一番良いと思うものにシールを貼って投票する。</p> <p>② 印象に残ったグループやルール、投票した理由を伝える。</p> <p>○ 本時の学習を振り返る。</p>	<p>(T1,2) 書くことを思いつかない、または表現に困難さを感じている生徒にヒントを与える。わからない単語は辞書を引いて探すように伝える。</p> <p>(T1,2) T1, T2 でグループを分担し、間違いを直す手助けをする (T1) それぞれの案をできるだけ入れること、完成した Dream School Poster から、Best1 をみんなの投票で決めることを伝える。</p> <p>(T1,2) 各グループのポスターを教室の壁に貼り出す。 (T1) じっくりと読んで考え、投票するように促す。</p> <p>(T2) ポスターを写真に撮り、プロジェクターで映す準備をする。</p> <p>(T1) 投票結果を確認し、全体で紹介する。表現の訂正やより良い表現なども紹介する。 (プロジェクターで映す)</p> <p>・本時の活動の様子を評価し、次時の活動につながるよう意欲づけをする。 →次時：印象に残ったグループやルールについてその理由を書いて、伝え合う活動</p>	

(3) 本時の具体的な評価

	十分満足できると判断される生徒の具体例	おおむね満足できると判断される生徒の具体例	支援が必要な生徒への手立て
イ	○学習した表現を正しく使って、自分の望む理想の学校ルールを書き、それを形容したりメリットを説明するなどして、読み手を意識した内容を付け加えて書くことができる。	○学習した表現を正しく使って、自分の望む理想の学校ルールを書くことができる。	○前時に学習した本校のルールを教師と生徒がやり取りをしながら復習し、キーワードやルールを見える化することで、助動詞を含む文を正しく書いたり、書く内容のヒントになるようにする。また、板書やモデルを参考に文を作るように個別に支援し、内容のヒントを与える。